

プレス発表資料

平成21年11月20日
独立行政法人 防災科学技術研究所

第2回災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクトシンポジウム 「防災力を向上する地域コミュニティの自治と絆 -リスクガバナンスの高度化と災害リスク情報の活用-」を開催

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、12月10日（木）に東京国際フォーラムにて、第2回災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクトシンポジウム「防災力を向上する地域コミュニティの自治と絆 -リスクガバナンスの高度化と災害リスク情報の活用-」を開催いたします。

本シンポジウムでは、災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクトの全体のコンセプトや進捗状況を報告するとともに、災害リスク情報プラットフォームを活用して全国の地域コミュニティの方々と協働で取り組んでいる地域防災活動の実践事例を紹介し、今後の災害リスクガバナンスのあり方について討論します。

自主防災組織等の地域の防災リーダーや災害ボランティア、防災や市民協働に携わる自治体職員、の方々のほか、防災に限らず、地区自治組織のリーダー、市民活動団体等の地域活動に関心のあるみなさまの積極的な参加を歓迎いたします。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会，科学記者会，筑波研究学園都市記者会

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
災害リスク情報プラットフォーム
研究プロジェクト
リスク研究グループ
長坂、田口
電 話：029-863-7546

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課
佐竹、山科
電 話：029-863-7783
F A X：029-851-1622

第2回災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクトシンポジウム

「防災力を向上する地域コミュニティの自治と絆 -リスクガバナンスの高度化と災害リスク情報の活用-」を開催

1 開催趣旨

災害に強い社会を構築するためには、市民や地域コミュニティ、行政、ボランティア、事業者等の地域社会を構成する多様な主体が、地域社会の絆に基づく協働型の防災戦略を推進することが重要となります。このように災害リスクを軽減する絆と協働の仕組みを「災害リスクガバナンス」と呼びます。また、防災戦略の推進にあたっては、専門家や過去の被災から得られた知恵を活かし、被害を軽減するための新たな知恵を生み出すことが有効です。

防災科学技術研究所では、昨年度より「災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究」プロジェクトを開始し、リスクガバナンスを支える災害リスク情報のあり方や活用システム、そしてこれらを活用した地域コミュニティの防災戦略に関する研究開発に取り組んでいます。

本シンポジウムでは、プロジェクト全体のコンセプトと進捗状況を報告するとともに、災害リスク情報プラットフォームを活用して全国の地域コミュニティの方々と協働で取り組んでいる地域防災活動の実践事例を紹介し、今後の災害リスクガバナンスのあり方について討論します。

2 開催概要

主催	独立行政法人 防災科学技術研究所
日時	2009年12月10日(木) 10:00~16:30 (開場 9:30)
場所	東京国際フォーラム ホールD5 (東京都千代田区丸の内3丁目5-1)
参加費	無料
対象	地域の防災リーダー、地区自治組織のリーダー、防災や地域協働に携わる自治体職員や研究者、災害ボランティアリーダー、市民活動団体、その他地域活動に関心のある方々
参加申込	WEB または FAX による事前登録制 (先着 100 名程度・申込順。ただし、午後のシンポジウムについては、申し込みが定員を超えた場合は、自治体関係者及び地域の防災リーダーの方々を優先させていただきます。)
申込方法	シンポジウムウェブサイト (http://bosai-drip.jp/sympo2009.htm) または、FAX 029-863-7541 でお申し込みください

3 プログラム

午前の部 10:00～12:00 「災害リスク情報プラットフォームプロジェクトの展開」	
10:00	開催のご挨拶
10:05	来賓ご挨拶
10:15-12:00	<p>1. プロジェクト全体のコンセプトと進捗状況 藤原広行（防災システム研究センター プロジェクトディレクター）</p> <p>2. 地域主体で実施する災害リスクガバナンスの再編手法 ～被害想定・防災マップ・災害リスクシナリオの作成による災害リスクコミュニケーションを通じて～ 長坂俊成（防災システム研究センター リスク研究グループ長）</p> <p>3. 地域主体で運用・活用する災害リスク情報活用システム ～「知」を可視化し地域活動を支える「eコミュニティ・プラットフォーム」と「地域防災キット」～ 臼田裕一郎（防災システム研究センター 主任研究員）</p> <p>4. 手段・道具の地域への適用と実証事例 ～地域特性を考慮した防災活動のあり方と新たな関係の創出～ 須永洋平（防災システム研究センター 研究員）</p>
<p>午後の部 13:00～16:30 「地域が受けうる被害を、地域自らどう想定し、どう対応するか？ ～地域被害想定・防災マップ・災害リスクシナリオの作成を通じた実践事例から～」</p> <p>地域防災力の向上には、地域コミュニティ自らが、災害によりどのような被害を受けるか、それに対してどう対応するかを事前に考え、訓練を実施しておくことが有効です。ここでは、災害リスクガバナンスの視点から、地域主体で行った被害想定や現状の防災水準の評価、防災マップづくり、災害リスクシナリオづくり、シナリオに基づく防災ドラマづくり等の実践事例を踏まえて、地域にあるべき防災戦略について討論します。</p>	
<p>コーディネーター 長坂俊成（防災システム研究センター リスク研究グループ長） コメンテーター 坪川博彰（防災システム研究センター 研究員）</p>	
13:00-14:45	<p>第1部 長岡市山古志地域竹沢集落の実践と課題</p> <p>全村避難というこれ以上の最悪の事態はないと思われた中越地震から5年が過ぎ、初めて行うこととなった本格的な防災訓練。竹沢集落の住民が訓練に先立ち考えた被害想定は？被災地に求められる災害対応のシナリオは？行政と集落、学校との連絡や連携は？…このような課題に対して取り組んだ実践事例を踏まえ、あるべき地域防災力向上戦略について討論します。</p> <p>パネリスト（敬称略・順不同・調整中）</p> <p>星野清剛 長岡市山古志竹沢在住（竹沢区長） 星野勇 長岡市山古志竹沢在住（竹沢副区長） 斉藤隆 長岡市山古志支所地域振興課課長</p>

	鈴木康幸 川上修	長岡市立山古志小学校教頭 NPO法人ながおか生活情報交流ねっと副理事長
14:45-15:00	休憩	
15:00-16:30	<p>第2部 藤沢市鶴沼地区鶴沼海岸5丁目の実践と課題</p> <p>大型の台風の襲来、頻発するいわゆる「ゲリラ豪雨」、迫りくる大地震等に対し、町内会として自主的に備えなければならない都市型地域。平日の昼間にベッドタウンを襲う災害リスクとは？要援護者の安否確認や避難誘導は？指定避難所の役割は？学区など町内会を超えた広域的な連携の仕組みづくりは？…このような課題に対して取り組んだ実践事例を踏まえ、あるべき地域防災力向上戦略について討論します。</p> <p>パネリスト（敬称略・順不同・調整中）</p> <p>佐藤俊平 藤沢市鶴沼海岸5丁目在住 大田哲夫 鶴沼中学校地区防災連絡協議会監事、民生委員 新倉孝幸 藤沢市役所総務部災害対策課課長補佐 水島孝 市民劇団の脚本家</p>	
16:30	閉会のご挨拶	

<ご案内>

- ・ 午後の第2部で紹介する藤沢鶴沼地区では、地域発・防災ラジオドラマの放送を行いました。また、第一部で紹介する長岡市山古志地域での防災ラジオドラマも近日放送予定です。放送済みのラジオドラマは、下記のウェブサイトで聞くことができます。あわせて公開している台本もご覧下さい。
>地域発・防災ラジオドラマ <http://bosai-drip.jp/etc/bosai-radio-drama.htm>
- ・ 当研究プロジェクトでは、研究活動の内容や各地域における活動内容、地域の方の声を詳しく紹介した広報誌「リスク情報と地域防災」を発行しています。特に、藤沢市鶴沼海岸5丁目につきましては、第1号で特集しましたので、下記URLを是非ご覧下さい。
>広報誌「リスク情報と地域防災」 <http://www.bosai-drip.jp/etc/riskg-magazine.htm>
- ・ 本シンポジウムで使用した資料等は、シンポジウム後にウェブサイトに公開する予定です。
>第2回シンポジウムウェブサイト（予定） <http://bosai-drip.jp/sympo2009.htm>
- ・ プロジェクトの最新の活動は、メールニュース「BOSAI-DRIP ニュース」で毎月25日頃に配信しています。詳しくは下記URLをご覧ください。
>メールニュース「BOSAI-DRIPニュース」 http://www.bosai-drip.jp/etc/mail_news.htm